

大船渡市議会議長様

令和6年9月提出

会派名 日本共産党大船渡市議団

団長 滝田松男

会派視察報告書

1 日時 令和6年8月24日(土)から26日(月)

2 視察先・内容

能登半島地震の被災地である珠洲市などを訪問。

24日 新幹線を乗り継ぎ金沢市到着後、金沢市からレンタカーを利用し、夕方羽咋市にある全国災害対策連絡会議などで構成する能登半島地震被災者共同支援センターに到着。

支援センターの事務局長である黒梅明氏と面会打ち合わせし、25日に能登半島を案内してもらうとともに仮設住宅の住民を訪問・懇談することを決定。

黒梅事務局長は能登半島地震の特徴として以下のように話してくれた。「マグニチュード7.6、最大震度7だった。元旦に発生したので実家に集まっていた孫子も被災した。

若い者がいたから避難できた。年末年始の役所休日での発生で、緊急支援体制の不備があった。

海岸の隆起2~4メートル、漁港の損壊、地割れと崖崩れによる生活道路の決壊、集落の孤立化、避難所計画の不備による、水食糧、寝具、暖房、照明、トイレ、入浴の不足、自治体の体制・職員不足で避難所に十分な手が回らず、家族・集落単位の把握が不完全なまま二次避難を強行したためバラバラになったことで様々な被災救援申請が困難になり、てこずった」 かほく市泊

25日 黒梅氏の案内で9時から5時まで活動。

のと里山海道から珠洲市宝立町鶴飼・飯田・正院・蛸島地区を訪問。道路の両側の家屋倒壊が放置されたままになっているところを通過。蛸島地区の仮設住宅約60戸を訪問し住民と対話交流。

住民は「2年後には仮設住宅を出なければならないのでは」「バスなどでの移動手段が不便で困っている」「倒れた家をどうするのか、人手がなくて片付けができない」「疲れてボーっとしている」などと話し生活再建の見通しが立っていない状況にあることが感じられました。

仮設住宅で5年以上暮らしたなどと東日本大震災の経験を話し激励してきました。
羽咋市泊

26日 支援センターに顔を出して激励し帰路に就く。

参加者 滝田松男 山本和義



